

# 被災地医療学んで

## 哲多・国際 貢献大学院 モデル診療所開所

哲多町田渕の公設国際  
貢献大学院に、災害被災  
地での医療活動を想定し  
た仮設診療所のモデルハ  
ウスが完成し、十一日、  
小規模診療所「大田診療  
所」として開所式が行わ  
れた。

被災地では、学校体育  
館や公共施設などの避難  
所に仮設診療所が間仕切  
りして設けられることが

あり、患者のプライバシー  
保護や適切な医療の妨  
げになるケースが少なく  
ないという。モデルハウ  
スは、簡素でも別棟の仮  
設診療所の必要性を知っ  
てもらうため、医師や看  
護師、ボランティアの研  
修に役立てる。

鉄骨平屋約二十八平方  
メートル。内部は診察室が一部  
屋のみで、診察台、けが

などの応急処置が可能な  
医療器具、酸素ボンベが  
備えられ、尿検査や採血  
もできる。研修だけでな  
く、二月から週一日、地  
元の診療所としても活  
用。同大学院が、町内の  
旧大田小廃校舎を利用し

被災地医療の研修を狙い  
に、公設国際貢献大学院に  
完成した「大田診療所」

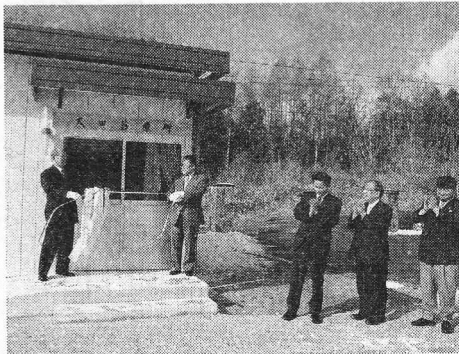
たことから、大田診療所  
と名付けられた。

総事業費約一千万円

は、運営する国際医療ボ  
ランティアAMDA(本

部・岡山市榎津)グルー  
プが負担した。

開所式には、地元住民  
ら約三十人が出席。同大  
学校の野秀利校営管理



者が「モデル  
ハウスでは、  
被災地の診療  
に最低限必要  
なものが研修  
できると思  
う。診療所と  
いう形で地域  
医療と国際貢  
献の両方に役  
立てたい」な  
どと述べた。